

都道府県名	鹿児島県
-------	------

学校の概要(平成15年度4月現在)

学校名	伊仙町立伊仙中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	2	0	5	12
生徒数	40	46	43	0	129	

実践研究の概要

1. 主題(テ-マ)

生徒に「学び」の姿勢を育て、「生きる力」を創造するための実践研究

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

・ 1～3年生・数学
 ・ 1～3年生・英語
 生徒の理解の状況に差が生じやすいため。

(2) 年次計画

平成14年度

テ-マ
 生徒に「学び」の姿勢を育て、「生きる力」を創造するための実践研究

仮説
 ・ 仮説1： 基礎学力を支える要素を生徒の実態に則して分析し、生徒が主体的に学ぶ場を設定するならば、互いにその要素を伸長できるのではないか。
 ・ 仮説2： 個々の生徒のつまずきへの対応を教育課程に位置づけるならば、個々の基礎学力の向上が図れるのではないか。
 ・ 仮説3： 保護者への家庭学習の大切さや習慣化を促すような場を設定するならば、家庭での学習が充実するのではないか。

研究内容・方法
 1 研究内容
 (1) 仮説1について
 ・ 標準学力検査(NRT)の結果を通して、生徒の学力の定着度を分析
 ・ 数学科・英語科における少人数指導・TT指導の実施
 (2) 仮説2について
 ・ 選択教科において基礎学力の向上を図る。 選択アドバンスの実施
 ・ 個に応じるための指導法の改善 少人数指導、習熟の程度に応じた指導
 (3) 仮説3について
 ・ 家庭教育学級・PTA等での教育情報の提供や、保護者を含む委員会の設置による学力向上の推進、教育への関心を高める研修の場の設定と啓発

2 研究方法
 (1) 仮説1について
 ・ 基礎・基本を習得させる学習の場の設定と実践および分析
 (2) 仮説2について
 ・ 数学、英語における個に応じた指導法の改善と推進及び評価の実施
 ・ 全教科における基礎・基本の精選と指導計画への明確な位置づけ
 (3) 仮説3について
 ・ 家庭教育学級や学力推進協議会における学力向上の意識の啓発

平成15年度

テ-マ
 生徒に「学び」の姿勢を育て、「生きる力」を創造するための実践研究

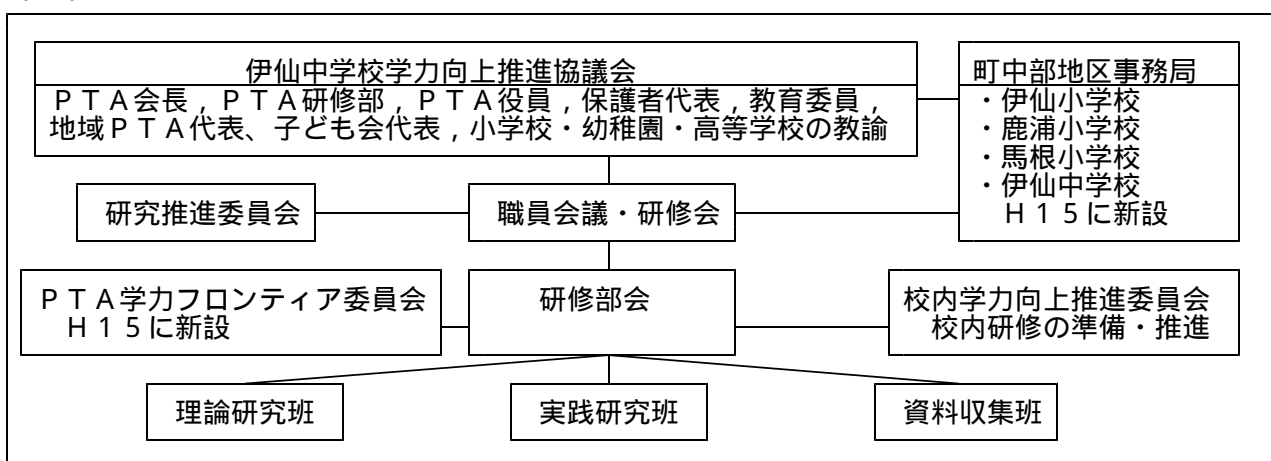
仮説
 ・ 仮説1： 個々の生徒の実態に対応した教材やそれを活用した指導過程を開発するならば、生徒自身の学習状況の把握に役立つのではないか。
 ・ 仮説2： 小学校・中学校の連携を図った教育課程を編成するならば、義務教育9力年での「学び」を育成できるのではないか。
 ・ 仮説3： 保護者の家庭教育の意識を高めれば家庭学習が改善されるのではないか。

研究内容・方法
 1 研究内容
 (1) 仮説1について
 ・ 標準学力検査(NRT)の結果を通して、前年度と比較しながら生徒の全教科における定着度の分析
 ・ 習熟の程度に応じた指導の内容と年間計画の再検討(数学・英語)
 ・ 家庭との連携による家庭学習ノ-トの習慣化の徹底
 (2) 仮説2について

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中学校の情報交換及び教育課程、指導過程の共同研修・研究の推進 ・ 同地区の中学校における教科研修等の交流の推進 <p>(3) 仮説3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中学校PTAの共同研修・研究の場の設定の工夫 <p>2 研究方法</p> <p>(1) 仮説1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5教科の診断テストの実態調査 <p>(2) 仮説2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価規準・基準の作成と評価の実践 <p>(3) 仮説3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PTA組織や学力向上推進協議会を中心にした親子の啓発活動等
--	---

平成 16 年度	<p>テ-マ 生徒に「学び」の姿勢を育て、「生きる力」を創造するための実践研究</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説1： 生徒自身が確実に評価できるような評価を学習過程の中に位置づけるならば、自己を見つめる力が身に付くのではないか。 ・ 仮説2： 小学校・中学校の連携を図った教育課程を編成するならば、9カ年での「学び」を育成できるのではないか。 ・ 仮説3： 家庭教育力が高まれば、地域教育力も高まるのではないか。 <p>研究内容・方法</p> <p>1 研究内容</p> <p>(1) 仮説1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準学力検査(NRT)の結果を通して、前年度と比較しながら生徒の全教科における変容の分析 ・ 自己評価の方法と指導過程への位置づけ ・ 生徒の「学び」の評価と変容の分析 <p>(2) 仮説2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校の共同研究の成果をもとにした教育課程づくりの推進 ・ 同地区の小中学校への研修成果の波及活動の推進 <p>(3) 仮説3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小・中学校PTAの共同研修・研究の推進 <p>2 研究方法</p> <p>(1) 仮説1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教科の診断テストの実態調査及び変容の分析 <p>(2) 仮説2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学科・英語科における習熟の程度に応じた指導計画の実施及び見直し ・ 評価規準・基準に基づく評価の分析と改善 <p>(3) 仮説3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 同地区の小中学校の合同PTA研修会や学習会、交流会の実施
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果と今後の課題

1 研究成果

選択アドバンスについて

「選択アドバンス」とは、本校生徒に必要な基礎・基本を確実に習得させるために、選択教科に特設したものである。この時間の学習プリントや確認テストは、生徒の実態に則しながら実力錬成の面も考慮して作成した。1学期は、前年度のアドバンスの学習プリントを活用したが、2学期は標準学力検査の結果から、補充したい基礎・基本を焦点化して問題作成をした。授業と確認テスト

の口 - テ - ションを、国語・数学・英語の3教科で各学年5回ずつ回るように工夫して実施した。

ア 「選択アドバンス」の確認テストの領域・内容（平成15年度 2学期版）

【国語】全学年とも「読む」力（読み取る力）の育成を中心に問題を作成した。

回	1年生	2年生	3年生
1	説明的文章（読む）	説明的文章（読む）	古典的文章（読む）
2	説明的文章（読む）	説明的文章（読む）	古典的文章（読む）
3	文学的文章（読む）	古典的文章（読む）	古典的文章（読む）
4	言語事項（書く）	言語事項（書く）	言語事項（書く）
5	診断テスト	診断テスト	診断テスト

【数学】いろいろな四則計算と数学的思考の筋道の習得を中心に問題作成した。

回	1年生	2年生	3年生
1	数と式（計算）	四則計算、文字式	数と式（計算）
2	数と式（文章題）	一次方程式の文章問題	数と式（文章題）
3	図形（面積、体積）	図形（三角形）	作図、図形
4	作図	図形（四角形）	相似（図形）について
5	関数（比例・反比例）	確率	関数について

【英語】「書く」ための基本的な文法力の育成を中心に問題を作成した。

回	1年生	2年生	3年生
1	b e 動詞	自己紹介	過去形
2	疑問文	過去形	未来形
3	否定文	動詞のSの付け方	不定詞
4	一般動詞	人称代名詞	比較級
5	一般動詞の疑問文	現在進行形	現在完了

イ 確認テストの結果（平成15年度2学期の結果から）

・ どの教科も1回が10点満点である。確認テストは、生徒に確実に身につけさせたい基礎・基本を精選して問題作成しているのので、「目標値」は全教科とも10点に設定してある。

【1年生】

教科	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	平均	目標値	到達度
国語	7.0	8.3	6.0	6.0	7.7	7.0	10	-3.0
数学	7.7	8.2	4.5	7.0	6.7	6.8	10	-3.2
英語	8.6	8.8	9.2	9.3	8.5	8.8	10	-1.2

【2年生】

教科	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	平均	目標値	到達度
国語	7.5	6.7	6.8	7.2	8.7	7.3	10	-2.7
数学	6.6	6.8	6.7	8.2	7.3	7.1	10	-2.9
英語	8.7	6.3	8.7	9.8	7.4	8.1	10	-1.9

【3年生】

教科	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	平均	目標値	到達度
国語	7.3	7.3	5.8	7.7	7.3	7.1	10	-2.9
数学	8.6	8.7	8.1	9.1	7.3	8.3	10	-1.7
英語	8.4	8.3	7.9	8.3	8.2	8.2	10	-1.8

ウ 実践の結果 は成果、 は課題

「選択アドバンス」を実践した結果、生徒に学習リズムができて学習意欲が次第に高まり、集中して学習に取り組む姿勢ができてきた。また、確認テストの結果が次第に向上し、追指導を必要とする生徒が減りつつある。

追指導を実施することで個別指導の場を確保でき、教師側が個々の生徒のつまづきを把握しやすくなり、個々への対応が確実になった。また、つまづきのある生徒も質問しやすい雰囲気での学習できた。

「個人ファイル」の結果を生徒自身に記録させグラフ化することで、自分の学習状況や定着の状況を把握しやすくなった。また、結果を保護者に伝え、PTAの諸会合で話題にすることで家庭学習への意識の啓発を図れた。

効果をより強めるために、3教科の口 - テ - ションの組み方を見直し、さらに定着を図る組み方に改善する必要があるのではないかと。

3教科の基礎・基本の内容をより精選し、それを使える力を確認できるようにテストの内容を練り直していく必要があるのではないかと。

「学び」の姿勢を育成するには、全教科における指導過程をより工夫する必要がある。

授業改善について

ア 数学・英語の少人数指導

- ・ 単元や一単位時間の指導過程の中で、基礎・基本を定着させる場の設定を明確にした。
- ・ 習熟の程度に応じた指導を行う場合、各コースの学習目標や内容を明確にした。
- ・ 小黒板を利用して、前時までの基礎基本の復習や互いの考えの交流をした。
- ・ 一単位時間に本時の学習を生かした演習や発展学習の時間を組んだ。

イ 他教科の指導

- ・ 単元や一単位時間の指導計画の中で、「考える」「練り上げる」という学習場面を設定した。（基礎基本を使って、主体的に学習成果を生かす学習活動）
- ・ 確認テスト等を実施して、定着度を評価をしながら個別指導や補充学習を行った。
- ・ 家庭学習の習慣づけと基礎・基本の定着を図るために、国語・英語・数学の自宅学習帳をその教科の授業がある日に提出させた。

ウ 実施後の結果

学業指導への取組の強化により、始業前着席などの学習の躰がかなり向上してきた。
習熟度別の少人数指導により、生徒一人ひとりのつまずきを把握しやすくなり、個別指導、小黒板の活用、個やグループへの細やかな指導の工夫ができた。
「学習の心得5か条」と「学習の手引き」を作成し、学業指導を強化できた。
自宅学習帳の提出が習慣化され、家庭学習も次第に習慣づいてきた。内容も向上している。
習熟の程度に応じた少人数指導においては、年間指導計画の計画的・系統的な配置を再検討していくことが必要である。
確認テスト等の評価とその活用法について、さらに工夫改善が必要である。
小・中学校の連携を確立させるために、教育課程の共同研究を推進していく必要がある。
また、教科レベルでの情報交換や授業交流などの実施を進めていきたい。
生徒の学力向上のために、学習環境の整備や家庭学習の習慣化などについて、地域・保護者へのさらなる啓発活動を推進していく必要がある。

2 今後の課題

- 生徒の変容を具体的に捉える評価の工夫（全教科において変容がわかる評価）
- ・ 学習後の確認テストの結果から学力の現状を把握し、現状を共通理解する。
- ・ 「学び」そのものの評価法をさらに研修する。（自己評価、観察法、意識調査等による）
- 学力向上のつまずきの分析を進め、全教科でその解消にあたる態勢づくりを再度行う。
- ・ 生徒のつまずきを各教科がもっと細かく分析し、その改善策に徹底的に取り組む。
- ・ 学力や授業の現状等について保護者に情報提供し、家庭教育との連携を強める。
- 小・中合同の研修機会を設定して、学力の現状や課題を共通理解・共通実践する。
- ・ 全体研修や教科別研修の機会を設定し、共通理解しながら研究を推進する。
- P T A・地域との連携や協力態勢をさらに推進する。
- ・ 家庭学習の習慣づけや充実を目指すために、家庭教育力の強化を図る。
- ・ 今年度に発足した中部地区事務局の活動を継続・発展させる。

学力把握のための学校の取組について

4月の標準学力検査（NRT）の結果を通して、7月に生徒の基礎・基本の定着度の分析
各教科の指導計画における評価規準・基準の検討と作成（8月～12月）
実力テストでの作問の検討（高校入試レベルの基礎基本の出題と定着度の確認）
選択アドバンスの確認テストの結果の記録とその分析（学期ごと）、問題の再検討（各回ごと）
「学び」の姿勢を育成する4要素についての自己評価
家庭教育に関する意識調査の実施と分析、結果の周知（9月実施、10月地域PTAで周知）

フロンティアスクールとしての成果の普及について

これまでの研究会、説明会の実績（伊仙中学校、伊仙町中部地区主催）

平成15年	5月29日	第1回伊仙町中部地区事務局会議
		中間発表までに9回開催
		中部地区の研修推進
		中部地区各校の研修会の準備・打ち合わせ
		中間発表会に向けての準備・打ち合わせ、各校への連絡
	6月 2日	第1回伊仙町中部地区研修会（伊仙中学校での研究授業）
	6月 6日	第1回 伊仙中学校学力推進協議会
	6月20日	第2回伊仙町中部地区研修会（伊仙小学校での研究授業・授業研究）
	9月22日	第3回伊仙町中部地区研修会（鹿浦小学校での研究授業・授業研究）
	10月29日	第4回伊仙町中部地区研修会（馬根小学校での研究授業・授業研究）
	10月 6日	伊仙中学校 校内研究授業（数学科：2年生）
	10月14日	伊仙中学校 校内研究授業（英語科：1年生）
平成16年	1月23日	中間発表会 事前授業（数学科：中学2年生） 打ち合わせ会
	1月29日	学力向上フロンティアスクール中間発表会
		国語部会、算数・数学部会、英語部会、PTA部会 合計204名

【新規校・継続校】	1 5 年度から	1 4 年度から		
【学校規模】	6 学級以下 1 3 ~ 1 8 学級 2 5 学級以上	7 ~ 1 2 学級 1 9 ~ 2 4 学級		
【指導体制】	少人数指導 一部教科担任制	T・Tによる指導 その他		
【研究教科】	国語 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	